

マルコの福音書 11章12-25節 空虚な礼拝の危うさ

今朝は、イエスの死の直前の最後の一週間の二日目に入ります。マルコの福音書11章12節から25節に書かれているこの日には、二つの関連した出来事が起こっており、その両方が空虚な、間違っただけ、あるいは無意味な礼拝の危険を指し示しています。先に言うておきますが、聖書によっては26節が書かれていることがあります。死海文書のような最近の発見に基づいて、これは後に付け加えられたもので、原文には含まれていなかったことが分かっています。従って、最近の聖書訳に26節を見ることはありません。この箇所は、一本の木から始まり、神殿に移り、十二弟子たちに終わります。この出来事を通して、私たちは、真の礼拝を示す実を結んでいるのか、それとも空虚な礼拝を示す実を結んでいるのか、自分自身で考えるよう迫られているのです。12節から読み始めましょう。そこには実のない木があります。

翌日、彼らがベタニアを出たとき、イエスは空腹を覚えられた。13葉の茂ったいちじくの木が遠くに見えたので、その木に何かあるかどうか見に行かれたが、そこに来ると、葉のほかには何も見つからなかった。いちじくのなる季節ではなかったからである。14するとイエスは、その木に向かって言われた。「今後いつまでも、だれもおまえの実を食べることがないように。」弟子たちはこれを聞いていた。

エルサレムへの最初の凱旋入城の後、イエスと弟子たちは神殿を見て回り、ベタニアに向かうために街を出るのを覚えていますか。これが翌日であることは明らかでしょう。そして、これは興味深い出来事です。イエスは木に実がなっていないので、その木を呪っています。この木に対する苛立ちや怒りに身を任せているように聞こえますし、それはイエスが自分の感情をコントロールできなくなった罪深さを非難されるポイントのようにも聞こえます。いちじくの季節ではなかったのですが、イエスはないはずのいちじくを探し、それがないと怒ったのです。この出来事をこのように解釈する人たちもいます。この解釈の問題点は、聖書がイエスが決して罪を犯さなかったと明言していることです。

ヘブル人への手紙 4章15節 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでしたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。

ですから、この出来事の解釈は、イエスの罪のない人格から始めなければなりません。では、激怒したことが非難されることではないとすれば、ここで何が起きているのでしょうか。おそらく、イエスは正当な理由で食べ物を探しているのでしょう。生い茂る葉が木を覆う時期には、いちじくは食べるには早く、完熟していないが食べられる若いいちじくは木に実っているはずでした。しかし、彼が見に行くと、木には実がなっているように見えたが、葉ばかりで実はありませんでした。見かけはよく、健康で実のなる木のように見えますが、実際には実のなる木としては無価値でした。もちろん、イエスはただがっかりして立ち去ることもできましたが、弟子たちに空虚な礼拝についての教訓を学ばせる必要があり、その教訓を教えるために実のなっていない木を用いられます。その木は、実を結ぶはずのものを結んでいませんでした。その木が本当にいちじくの木であり、滋養のある食べ物を実らせる木であることを皆に証明する実が、人の目には偽って伝わっていたのでした。この状態はやがて彼らが直面することになる真の神への礼拝の中心であるエルサレム神殿で、やがて彼らが直面する状態と同じでした。そして、空虚な偽りの礼拝があるところには、神からの裁きがあるので、イエスはその木を呪われたのです。もちろん、弟子たちはこれから起こることをまだ知りませんが、霊的に空虚な神殿に入った弟子たちに、次に起こる行動を理解させるために、いちじくの木の出る出来事は起こったのです。私たちは、15節から始まるエルサレム入城の際、この霊的に空っぽの神殿での出来事がすぐに展開されるのを見ます。

15 こうして彼らはエルサレムに着いた。イエスは宮に入り、その中で売り買いしている者たちを追い出し始め、両替人の台や、鳩を売る者たちの腰掛けを倒された。16 また、だれにも、宮を通って物を運ぶことをお許しにならなかった。17 そして、人々に教えて言われた。「『わたしの家は、あらゆる民の祈りの家と呼ばれる』と書いてあるではないか。それなの

に、おまえたちはそれを『強盗の巣』にしてしまった。」 18 祭司長たちや律法学者たちはこれを聞いて、どのようにしてイエスを殺そうかと相談した。群衆がみなその教えに驚嘆していたため、彼らはイエスを恐れていたのである。

神殿について少し理解することは、この時点で重要です。神殿はもちろん、当時神に従うと主張するすべての人々の礼拝の中心でした。神殿がエルサレムにあることは周知の事実ですが、ここで語られている神殿の一部は、神を信じる異邦人が神を礼拝するために特別に設けられていたのです。スクリーン上に、青くハイライトされているエリアが見えます。この区域は最も広く、異邦人が入ることのできる唯一の区域です。この先はユダヤ人しか行くことができません。ローマ帝国の支配者であったヘロデは、ユダヤ人の好感を得るために、ソロモンの神殿に続く第二神殿（再建神殿）を拡張したため、この神殿はヘロデの神殿として知られていました。ヘロデの神殿は4つの中庭で構成され、それぞれが入る者を厳しく制限していました。イエスが入られたこの外側の中庭は異邦人の中庭であり、前述したように、ユダヤ人以外が礼拝を献げ、神に献げ物をするために入ることができる唯一の場所です。

17節でイエスがイザヤ書56章7節を引用したのは、異邦人の宮廷にいるからです。 **わたしの家は、あらゆる民の祈りの家と呼ばれる**.... 異邦人の宮廷で行われていた商取引のために、すべての国民が礼拝に参加することが難しくなっていました。神殿の他の礼拝所へのアクセスが最も悪い人々は、礼拝を妨げられていました。生け贄に献げる動物を現地の通貨で購入する、そのために両替商がそこにいましたが、それを強要していたこと、あるいは、動物や物販イベントが周囲で起こっている現場の混乱のために礼拝できないことによって、ユダヤ人は異邦人が礼拝することを非常に困難にしていました。これは、神殿が、世界中の人々が来て真の神を礼拝する場所であるという、神殿の存在理由そのものに反していたのです。神は、あらゆる文化、背景、人種、国籍の人々が神を礼拝することを望んでおられるのに、その機会を人々に課金することで、障壁を設け、神から最も遠い人々が神を真に知り、礼拝することができないようにしていたのです。私たちは今日でもそのようなことをしてしまうのでしょうか？もちろん一見すると違うようですが、歴史的に見れば、私たちは宣教においてそのようなことをしてきました。初期の宣教活動の多くは、民族主義や人種的優越主義に絡め取られ、福音の受容に問題を生じさせました。日本におけるキリスト教の歴史を読むと、16世紀から17世紀にかけての迫害につながった問題の一つは、日本に派遣されたスペインのカトリック宣教師と多くの意味で結びついた、スペインをはじめとするヨーロッパの貿易や影響力に対する怒りでした。彼らはイエス・キリストとその福音だけを伝えるのではなく、ヨーロッパのスペイン植民地意識を強引に持ち込んだためイエス様の十字架のメッセージが霞んでしまいました。今日、もし私たちに人種的、文化的、あるいは国家的優越感といった同じような態度があれば、それは福音を伝える能力に影響を及ぼします。福音はユダヤ人の福音ではなく、アメリカ人の福音でも日本人の福音でもありません。福音はすべての時代、すべての場所、すべての人々のためのものです。そして私たちは、イエス・キリストが罪人を救うために死なれたという飾り気のない真理に、西洋的であろうとアジア的であろうと、福音以外の考えを押し付けないように注意する必要があります。もちろん、私たちは福音の不変のメッセージを私たちのいる文化に文脈化します。しかし、福音そのものを変えたり、文化が福音のメッセージを決定するという印象を与えたりするようなやり方は決してしません。

イエスが神殿で見たものは、彼らがそこで礼拝と呼んでいるものの空虚さを指し示しています。イエスはメシアです。アダムとイブに衣を与えるために殺された動物に始まり、これまでのすべての犠牲が指し示すお方なのです。神殿のあるモリヤ山は、アブラハムが神に従順であるためにイサクを生け贄に献げそうになった場所であり、神がイサクの身代わりとなる生け贄にイエス様を備えてくださった美しい情景の場所です。ダビデの子であり、人の子であり、神の民を贖う神の子である約束のメシアを神が遣わされるよう、その場所では何世紀にもわたって祈りが献げられてきました。しかし、前日にメシアが神殿に入ったとき、メシアを探し、メシアを遣わした父なる神を礼拝していると主張するメシアを歓迎する者は誰もいませんでした。そして翌日、神殿に戻ってきたメシアを迎えたのは、礼拝ではなく、商売の叫びでした。もし彼らが日本語を話していたなら、イエスはおそらく神殿の隅々から「いらっしやいませ！」という声を聞いたことで

しょう。そして、私たちは主の正しい怒りを目の当たりにします。いちじくの木に対する主の怒りは、イエスが演出したたとえ話としてエルサレムの神殿で明白になりつつあることに対する裁きを弟子たちにわからせようとされたのです。しかし、礼拝が行われるはずの場所で、礼拝が妨げられることが起こっているのを見て、主は心から怒ったのです。木に対する怒りがあったとすれば罪でしたが、この怒りは正しいものでした。エペソ4章は、罪のない怒りがあることを明らかにしています。エペソ4章26節にはこうあります。

エペソ人への手紙 4章26節 怒っても、罪を犯してはなりません。憤ったままで日が暮れるようであってははいけません。

イエスが実のない木にさばきを下したように、彼らの空っぽの礼拝に対するイエスの正しい怒りは、彼らを追い出し、台や腰掛けをひっくり返すという非常に物理的な方法で彼らの活動をさばく結果となりました。そして、宗教指導者たちは、彼ら自身が神殿をイエスが非難しているようなものにしてしまったと言うそのメッセージを聞き、それが自分たちに対してであることを理解したことがわかります。18節にはこうあります。 **18 祭司長たちや律法学者たちはこれを見て、どのようにしてイエスを殺そうかと相談した。群衆がみなその教えに驚嘆していたため、彼らはイエスを恐れていたのである。**、

しかし、実際のメシアを逃した空虚な神殿礼拝に対する裁きを示しただけで、この出来事が終わるわけではありません。イエスはこの後、イエスに従う空虚な信仰に対する警告を発しています。最後の20-25節を読みみましょう。

20 さて、朝早く、彼らが通りがかりにいちじくの木を見ると、それは根元から枯れていた。

21 ペテロは思い出して、イエスに言った。「先生、ご覧ください。あなたがのろわれた、いちじくの木が枯れています。」 22 イエスは弟子たちに答えられた。「神を信じなさい。23 まことに、あなたがたに言います。この山に向かい、『立ち上がって、海に入れ』と言い、心の中で疑わずに、自分の言ったとおりにになると信じる者には、そのとおりになります。24 ですから、あなたがたに言います。あなたがたが祈り求めるものは何でも、すでに得たと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。25 また、祈るために立ち上がる時、だれかに対し恨んでいることがあるなら、赦しなさい。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの過ちを赦してくださいませ。」

世の中には、繁栄の福音という考えで多くの人を惑わす間違った教えが横行しています。マルコによる福音書11章23節から24節を、神が私たちの信仰の祈りに自動的に富や癒しで報いてくださるという証拠として用いる繁栄の神学ですが、それは祈りの本質を見誤っています。私たちの祈りが神中心であり、信仰の源に焦点を当て、25節が指し示す愛するように命じられている人々に焦点を当てるのではなく、繁栄の神学の祈りは自己中心なのです。これは祈りの核心でも、正しい焦点でもありません。私たちは何かを得るために祈るではありません。私たちは、自分の意志を神の意志に一致させるために祈るのであり、神に信頼することによって、神が私たちを通して何をなさろうとしておられるかを知るために祈るのです。

ここでなぜ祈りなのでしょう？ 焦点は、エルサレムで起こっている空虚な礼拝を表していた実のないいちじくの木にありました。しかし、イエスは話を祈りに移しました。文脈と一致していたのでしょうか。イエスは弟子たちに焦点を当てました。祭司や神殿ではなく、弟子たちがイエスの死と復活、そして天に昇られた後、イスラエルと全世界における霊的成長の源となるからでした。いちじくの木の子実の生きた手本は、イスラエルだけのことではなく、イエスに従う者すべてへの警告であることを示しているのです。イエスに従う者の人生には、たとえそれがなり始めの小さな実であっても、完全には成長していないとしても、実りが期待されています。そして、その霊的な実を増やし、成長させる方法は、主に祈りによって行われ、神の栄光がこの世に現れるように、祈りの中で神の力と指示を求めるのです。キリストへの信仰は、祈りによって行使され、増し加えられます。キリストが来られて以来、教会は福音を地上に伝えるという明確な使命を与えられているため、霊的な実を結ぶことの必要性は、この時代においてますます高まっています。

す。使徒の働き1章8節はこう言っています。使徒の働き 1章8節 しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」

そして、福音を世界に伝える使命は、イエス様に従う者たちの生活の中になる実を見ることから始まります。ローマ人への手紙6章20節から23節はこう言います。ローマ人への手紙 6章 20~23節 20 あなたがたは、罪の奴隷であったとき、義については自由にふるまっていました。21 ではそのころ、あなたがたはどんな実を得ましたか。今では恥ずかしく思っているものです。それらの行き着くところは死です。22 しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得ています。その行き着くところは永遠のいのちです。23 罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

キリストへの信仰を持つとき、私たちの人生には実りが期待されます。それは、未信者の人生を特徴づけるものとは正反対の実です。それは、私たちがキリストに従う者であり、聖霊の内在を示す実です。ですから、ガラテア人への手紙5章22-24節を読むと、それは御霊の実と呼ばれています。ガラテア人への手紙 5章22~24節 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、23 柔和、自制です。このようなものに反対する律法はありません。24 キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、情欲や欲望とともに十字架につけたのです。

祈りの中で信仰を行使しながら、その実が成長するのを見ようと献身すると、結果として、私たちが他人を愛する方法にも変化をもたらします。私たちは、自分の罪深さ、さらには自分の信仰における不揃いで一貫性のない歩みを目の当たりにし、私たちに対して一貫性のない誤った行動をとる他人をより進んで赦すようになります。25節はこう終わります。25 また、祈るために立ち上がる時、だれかに対し恨んでいることがあるなら、赦しなさい。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの過ちを赦してください。」

神は私たちのすべてを赦されたので、私たちは聖なる神に対する罪の重さにははるかに及ばないことでも、他人を赦すことができます。これが真の信仰の姿なのです。御霊の実という内面的な実と、他者に対する行動という外面的な実の両方があります。その信仰を行使することによって、イエスが指摘したように、私たちは霊的に山を動かすことができます。私たちの信仰は、神殿で起こっていたような、ただ神を信じます、という空虚な言葉ではなくなります。そして、私たちの信仰は、聖霊の働きが私たちの人生を変え、永遠に続く福音の実を結ぶ力強い証明となります。そして、キリストの体である私たちがそれぞれこのように祈るとき、私たちの教会は共に、福音の人生を変える力を周囲の社会に力強く示すものとなります。神の民が霊的な山が動かされるのを見るために、祈りによって私たちの神の御前に入るなら、地域社会、都市、国家は変えられます。そうなれば、心と人生が変えられ、私たちの王であり救い主であるイエス・キリストへの真の忠実な礼拝に加わる人々がますます増えるという実を結ぶのです。祈りましょう。

Mark 11:12-25 The danger of empty worship

This morning we move into the second day of Jesus's final week before his death. In this day that we read about in Mark 11:12-25, we see that there are two connected events that are happening and both of them point to the danger of empty or wrong or even meaningless worship. Let me just say up front, you may see a verse 26 in some Bibles, but based on more recent finds like the Dead Sea Scrolls, we now know that was added later and was not part of the original text, so you won't see it in modern translations. This passage begins with a tree, moves to the temple and ends with the twelve disciples, and throughout the event we are challenged to consider for ourselves whether we have fruit that demonstrates real or empty worship. Let's begin reading at verse 12 where we see **the empty tree**. **12 On the following day, when they came from Bethany, he was hungry. 13 And seeing in the distance a fig tree in leaf, he went to see if he could find anything on it. When he came to it, he found nothing but leaves, for it was not the season for figs. 14 And he said to it, "May no one ever eat fruit from you again." And his disciples heard it.** Remember that after the initial "triumphal entry" into Jerusalem, Jesus and his disciples look around the temple and then leave the city for Bethany. It seems clear this is the next day. And this is an interesting event. Jesus is cursing a tree because it doesn't have fruit on it. It sounds like he is giving into frustration or anger at this tree, which sounds like a point where Jesus could be accused of sinful loss of control at his emotions. It was not fig season, and Jesus was looking for figs which would not be there, and gets angry when they aren't there. Some have taken just this approach to interpreting this event. The problem with this is that the Scripture is clear that Jesus never sinned. **Hebrews 4:15 says, For we do not have a high priest who is unable to sympathize with our weaknesses, but one who in every respect has been tempted as we are, yet without sin.** So, any interpretation of this event must begin with the sinless character of Jesus. So, if an angry loss of temper is not to blame, what is going on here.

It is likely that Jesus is legitimately looking for food. At the time of year when the leaves are fully covering the tree, the figs will not be ready, but young figs that are not fully ripe, but can be eaten should be on the tree. When he goes to look, though, while the tree looks like the fruit should be there, instead it is all leaves and no fruit. The tree is all looks...it looks good to the eye, and it looks like a healthy productive tree...but in reality, it is worthless as a fruit producing tree. Of course, Jesus could have been disappointed and just walked away, but he needs his disciples to learn a lesson about empty worship, and uses an empty tree to teach that lesson. You see the tree was not producing what it was supposed to produce. The fruit that proved to everyone that the tree was indeed a fig tree that could provide nourishing food was misrepresenting itself to the world. This is the condition that would soon confront them in the center of worship to the true God, the Jerusalem temple. And where there is empty, false worship, there will be judgement from God, and so Jesus curses the tree. Of course, the disciples do not yet know what is going to happen, but this takes place to cause them to understand the actions that take place next as they enter **the spiritually empty temple**.

We see the events in this spiritually empty temple unfold right away as they enter Jerusalem starting at verse 15. **15 And they came to Jerusalem. And he entered the temple and began to drive out those who sold and those who bought in the temple, and he overturned the tables of the money-changers and the seats of those who sold pigeons. 16 And he would not allow anyone to carry anything through the**

temple. 17 And he was teaching them and saying to them, “Is it not written, ‘My house shall be called a house of prayer for all the nations’? But you have made it a den of robbers.” 18 And the chief priests and the scribes heard it and were seeking a way to destroy him, for they feared him, because all the crowd was astonished at his teaching.

1 And when evening came they went out of the city. Understanding a little about the temple is important at this point. The temple was of course the center of worship for all those who claimed to be followers of God at the time. While we are all aware that the temple is in Jerusalem, what may not be as obvious is that the part of the temple that is being talked about here is specifically set aside for gentile believers in God to come to worship him as well. On the screen you can see the area highlighted in blue. It is the largest area and the only area that Gentiles could enter. Beyond this only Jewish people could go. This temple was known as Herod’s temple, because Herod, the Roman ruler had expanded the Second (Rebuilt) temple that followed Solomon’s original temple in order to gain favor with the Jews. Herod’s temple consisted of 4 courts, each more restrictive as to who could enter. This outer court where Jesus enters is the Court of the Gentiles, which as I mentioned is the only area where non-jews could enter to worship and bring sacrifices as offerings to God. It is that location in the court of the Gentiles that explains Jesus’s quote from Isaiah 56:7 in verse 17, ‘My house shall be called a house of prayer for all the nations’... The commerce taking place in the Court of the Gentiles was making it difficult for all the nations to participate in worship. The people who had the least access to the rest of the places of worship in the temple were being prevented from worshipping. Whether it was forcing them to purchase the animals for sacrifice using the proper money, which is why the moneychangers were there, or just the inability to worship because of the chaos of the scene with animals and sales events happening all around them, the Jews had made it very difficult for Gentiles to worship. And this went against the very reason for the temple, to be a place where the world could come and worship the true God.

God intends for people from all cultures, backgrounds, races and nationalities worship him, and by charging people for that opportunity, they were putting barriers in the way and keeping those who were furthest from God from being able to truly know and worship him. Can we still do that today? It looks different of course, but historically, we have done this in missions. Many early missions efforts were entangled with nationalistic and racial superiority that created problems for the receptivity of the gospel. If you read the history of Christianity in Japan, one of the problems that led to the persecutions of the 16th and 17th centuries was anger at the influence of Spanish and other European trade and influence that had in many ways been tied to Spanish Catholic missionaries sent to Japan. Instead of just bringing Jesus Christ and his gospel alone, they brought a heavy handed European Spanish colonial mentality that eventually overshadowed the message of the cross. Today, if we have any similar attitudes of racial, cultural or national superiority, it will affect our ability to share the gospel. The gospel is not a Jewish gospel, it is not an American gospel or a Japanese gospel. The gospel is for all times, in all places, for all people. And we need to be careful not to force non-gospel ideas onto the unadorned truth of Jesus Christ dying to save sinners, whether those ideas are western, or Asian. Of course, we contextualize the unchanging message of the gospel to the culture we are in, but never in a way that changes the gospel itself or gives the impression that the culture determines the gospel message.

What Jesus sees in the temple is pointing to the emptiness of what they are calling worship there. Remember, Jesus is the Messiah. He is the one that every sacrifice ever

made starting with the animals killed to provide clothing for Adam and Eve was pointing to. The temple location was on the same mount Moriah where Abraham had nearly sacrificed Isaac in obedience to God, and had God provide the substitute for Isaac in a beautiful picture of Jesus's sacrifice for us. Centuries of prayers had gone up in that place for God to send his promised Messiah, the son of David, Son of Man, and Son of God who would redeem God's people. Yet when the Messiah entered the temple the previous day, no one welcomed him who claimed to be looking for him and worshipping God the Father who sent him. And now, as he returns to the temple the next day, he is not greeted with worship, he is greeted with the cries of commerce. If they were speaking Japanese, he likely would have heard, "Irasshaimase!" from every corner of the temple area. Then we see the righteous anger of our Lord. The tree did not make him angry; it allowed him to make a point that is becoming plain in the temple. But what he saw happening in the place where worship is supposed to happen that was preventing worship from taking place, that made him truly angry. The anger at a tree would have been sinful, but this anger is righteous. Ephesians 4 seems to make it clear that there is anger that is not sinful. [Ephesians 4:26 says, 26 Be angry and do not sin; do not let the sun go down on your anger](#)... Just as Jesus passed judgement on the empty tree, his righteous anger against their empty worship now resulted in his judging of their activities in a very physical way as he overthrew their tables. And we know that the religious leaders heard and understood that message that was really against them, since they had made the temple into what he was condemning. Verse [18 tells us, And the chief priests and the scribes heard it and were seeking a way to destroy him,](#)

But the demonstration of judgement against empty temple worship that missed the actual Messiah is not where this event ends. Jesus follows it up by a warning against **empty faith in following Jesus**. Let's read the last set of verses from 20-25. [20 As they passed by in the morning, they saw the fig tree withered away to its roots. 21 And Peter remembered and said to him, "Rabbi, look! The fig tree that you cursed has withered." 22 And Jesus answered them, "Have faith in God. 23 Truly, I say to you, whoever says to this mountain, 'Be taken up and thrown into the sea,' and does not doubt in his heart, but believes that what he says will come to pass, it will be done for him. 24 Therefore I tell you, whatever you ask in prayer, believe that you have received\[c\] it, and it will be yours. 25 And whenever you stand praying, forgive, if you have anything against anyone, so that your Father also who is in heaven may forgive you your trespasses.](#)" There is a false teaching rampant in the world that is misleading many with the idea of prosperity gospel. Prosperity theology that would use Mark 11:23-24 as proof that God will automatically reward our prayer of faith with wealth or healing, but that misses the whole point of prayer. Rather than our prayer being God centered, focused on the source of our faith, or other centered towards those we are commanded to love, which is where verse 25 points us, the prayers of prosperity theology are self-centered. This is not the point or proper focus of prayer. We don't pray so that we get something. We pray to align our will to God's will, to see what it is he wants to do through us as we trust in him.

And why bring up prayer at all? The focus was on the empty fig tree that signified the empty worship happening in Jerusalem. But Jesus turns the conversation to prayer, and it doesn't seem to fit the context...or does it? Jesus puts the focus on them, because rather than priests and a temple, the disciples will become the source of spiritual growth in Israel and throughout the world after Jesus's death, resurrection and ascension back

to Heaven. He is showing that the living example of the fig tree is not just about Israel, but a warning to all of his followers. There is fruit expected in the lives of those who follow Jesus, even if it is the little beginnings of the fruit and not fully grown. And the way that we will increase and grow that spiritual fruit primarily takes place through prayer, as we seek God's strength and direction in prayer for his glory to go out in this world. Faith in Christ is exercised and increased through prayer. The requirement for spiritual fruit has only increased in this era since Christ's coming as the church has a clear mandate to take the gospel throughout the earth. [Acts 1:8 puts it like this. But you will receive power when the Holy Spirit has come upon you, and you will be my witnesses in Jerusalem and in all Judea and Samaria, and to the end of the earth.](#)" And the mandate for taking the gospel to the world begins with seeing fruit in the lives of his followers. [Romans 6:20-23 tells us, 20 For when you were slaves of sin, you were free in regard to righteousness. 21 But what fruit were you getting at that time from the things of which you are now ashamed? For the end of those things is death. 22 But now that you have been set free from sin and have become slaves of God, the fruit you get leads to sanctification and its end, eternal life. 23 For the wages of sin is death, but the free gift of God is eternal life in Christ Jesus our Lord.](#) There is an expectation of fruit that will be in our lives when we have faith in Christ. It is fruit that is opposite of those things that characterize the lives of unbelievers. It is fruit that shows that we are followers of Christ and are indwelt by the Holy Spirit. So when we read [Galatians 5:22-24](#) it is called the fruit of the Spirit.

[22 But the fruit of the Spirit is love, joy, peace, patience, kindness, goodness, faithfulness, 23 gentleness, self-control; against such things there is no law. 24 And those who belong to Christ Jesus have crucified the flesh with its passions and desires.](#) A commitment to seeing that fruit grow as we exercise our faith in prayer will result in a change in how we love others as well. We will see our sinfulness and even uneven and inconsistent steps in our own faith and be more willing to forgive others who act inconsistently and wrongly in their actions towards us. So verse 25 ends, [25 And whenever you stand praying, forgive, if you have anything against anyone, so that your Father also who is in heaven may forgive you your trespasses.](#)" God has forgiven us everything so we can forgive others for things that fall far short of the severity of our sin against a holy God. This is what true faith looks like...there is fruit – both inward, through the fruit of the spirit, and outward, in our actions towards others. By exercising that faith, we are able to spiritually move mountains as Jesus pointed out. Our faith will not just be empty words of believing in God, like what was happening in the temple. But our faith will be a powerful demonstration of the work of the Holy Spirit changing our lives and producing the fruit of the gospel that will last into eternity. And when we as the Body of Christ are each praying in this way, then our church together will be a powerful demonstration to the society around us of the lifechanging power of the gospel. Communities, cities and nations can be changed, if the people of God will come before our God in prayer to see the spiritual mountains moved. When that happens, the fruit will be hearts and lives that are changed resulting in more and more people joining us in true and faithful worship of our king and Saviour, Jesus Christ. Let's pray.